

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	井上 英也 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な精神として、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	グループでホテルに宿泊し、ゲストの観点からインスペクションを実施する。計画、実施、報告書作成、改善案の報告のプロセスの中で積極的に役割を果たし、グループに貢献することができる。				授業への積極姿勢 ホテル・インスペクションへの積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人旅行者が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。          ② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。          ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。          ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する          尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。</p>							
授業の概要							
<p>ホテルを利用するゲストの視点からホテルを評価する手法を学び、インスペクター（評価者）の体験をする。また、地域観光におけるホテルの役割、インバウンドビジネスの仕組みなどをグループ・アクティビティにより修得する。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「新・観光立国論」デービット・アトキンソン</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。          ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。          ③「ホテル管理論」「ホテルビジネス英語」「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。          ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。          ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えておく
3	ホテル・インスペクション①	ゲスト視点から、ホテルの施設(ロビー/客室/レストランなど)およびサービス(フロント/レストランなど)をチェックし、評価する手法を考察する。	(予習) ホテルを利用した時にチェックする項目をリストアップする
4	ホテル・インスペクション②	ホテルを評価するためのチェックシートを作成する。(日本人ゲスト、外国人ゲスト、それぞれのホテルに対する要望を想定する)	(復習) チェックシートを完成する
5	ホテル・インスペクション③	ホテル会社からゲストスピーカー(実務家)を招き、インスペクションについて話し合う。また②で作成したチェックシートの内容を確認する。	(復習) チェックシートを修正する
6	ホテル・インスペクション④	佐世保周辺のホテルに宿泊し、インスペクションを実施する。	(復習) レポートに取り上げる内容を準備する
7	ホテル・インスペクション⑤	インスペクションの結果をグループで討議し、ホテル会社に対するレポートを作成する。	(復習) レポートを完成する
8	ホテル・インスペクション⑥	ホテル会社に対し、インスペクションの結果から改善提案を行う。	(予習) プレゼンテーションの準備をする
9	日本版 DMO におけるホテルの役割①	今後の地方創成の中で、観光振興の柱として期待される DMO(Destination Management Organization)について学ぶ。	(予習) 日本版 DMO について、国土交通省のウェブサイトなどで調べる
10	日本版 DMO におけるホテルの役割②	佐世保・小値賀島観光圏について、ゲストスピーカー(実務家)を招き、DMOの現状と今後の取組みについて情報提供を受ける。	(予習) 佐世保・小値賀島観光圏についてウェブサイトなどで調べる
11	日本版 DMO におけるホテルの役割③	学生の視点で、観光圏におけるホテルの役割を考察し、レポートを作成する。	(復習) レポートを作成する
12	日本版 DMO におけるホテルの役割④	③のプレゼンテーションを行い、グループ討議により軌道修正した上で、レポートを完成する。	(復習) レポートを完成する
13	インバウンドビジネス事例研究①	長崎県内のインバウンドビジネスの現状を、ゲストスピーカー(実務家)から具体的な事例をヒアリングする。	(予習) インバウンドビジネスの現状を調べる
14	インバウンドビジネス事例研究②	①に関する実地調査を行った上で改善提案に基づきプレゼンテーションを行なう。	(予習) 改善提案を完成し、グループ発表の準備をする
15	専門演習ⅡAのまとめ	専門演習ⅡA学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究</b> 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会に参加して発表ができる。				プレゼンテーション 勉強会での発表	5% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、勉強会の発表各5%で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の日程・調査方法などを検討する。</li> <li>・現地調査を1日以上実施する。</li> <li>・研究発表会を行う。</li> <li>・研究成果レポートの作成と提出。</li> </ul> この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。							

※現地調査の旅費は実費とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。</b> 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。				模擬試験	30%	
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業などかなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。				模擬試験	40%	
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。また、積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。				グループディスカッション	20%	
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何か判断できる。旅行者のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質問に対して回答する。これらグループディスカッションの取り組みを評価する（評価比率30%）。また、模擬試験を3回受験し、この点数を基に評価する（評価比率70%）。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。							
授業の概要							
本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものを範囲として、学生主体で問題を解きながら進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。国試合格のためにも、模試を受験すること（模試費用は5,500円）。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないの注意してください。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法 (1)	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法 (2)	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～11条の予習、復習
5	旅行業法 (3)	料金揭示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法 (4)	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法 (5)	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第12～14条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法 (6)	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第18条～該当箇所の予習、復習
9	旅行業約款 (1)	募集型企画旅行の部 第1章総則、第2章契約の締結	募集型企画旅行の部 第1～12条の予習、復習
10	旅行業約款 (2)	募集型企画旅行の部 第3章契約の変更、第4章契約の解除	募集型企画旅行の部 第13～16条の予習、復習
11	旅行業約款 (3)	募集型企画旅行の部 第4章契約の解除、第5章団体契約、第6章旅程管理	募集型企画旅行の部 第13～26条の予習、復習
12	旅行業約款 (4)	募集型企画旅行の部 第7章責任	募集型企画旅行の部 第27～28条の予習、復習
13	旅行業約款 (5)	募集型企画旅行の部 第7章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第29～30条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第1～7章の予習、復習
14	旅行業約款 (6)	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第1～7章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる。この説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会演習参加状況	35% 10%	
協働・課題解決力	①三川内フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。				フィールドワーク・学術発表参加	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	2年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告 (速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第 8 週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。 ②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ) にまとめる。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3 分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『日本人の英語』 マーク・ピーターセン (著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	寺社1	寺社に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文1-10音読筆写
4	寺社2	寺社に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文11-20音読筆写
5	飲食店	飲食店に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文21-30音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文31-40音読筆写
7	食べ方	食べ方に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文41-50音読筆写
8	浮世絵1	浮世絵に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文51-60音読筆写
9	浮世絵2	浮世絵に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 61-70について調べる 復習：英文61-70音読筆写
10	温泉	温泉に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文71-80音読筆写
11	温泉の効能	温泉の効能に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文81-90音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文91-100音読筆写
13	祭り	祭りに関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文101-110音読筆写
14	獅子舞	獅子舞に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文111-120音読筆写、振り返り
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、小テスト	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	中山 忠彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツパフォーマンス測定の手法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡAの前半から、各種ワーク（輪読）を通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します（メディアリテラシー）。ⅡAの後半では、スポーツパフォーマンスの測定と評価の手法について実践を通じて修得します。							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学の理論を説明することができる。</li> <li>スポーツパフォーマンス測定を適切に実施できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> <li>作業課題</li> </ul>	20% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。</li> <li>自身の興味がある研究分野を選定し、関連する文献を収集できる。</li> <li>測定データを適切に収集し管理できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>作業課題</li> <li>研究レポート</li> <li>作業課題</li> </ul>	10% 20% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>受講態度</li> </ul>	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：20%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</li> <li>メディアリテラシーおよびパフォーマンス測定の作業課題を評価する（評価比率：30%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</li> <li>課題レポート（評価比率：20%）：「競技スポーツの特長とパフォーマンス向上のためのトレーニング」について評価し、第15回授業時にフィードバックする。</li> <li>受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。</li> <li>研究レポート（評価比率：20%）：授業での研究活動の内容を総合評価し、個別にフィードバックする。</li> </ul>							
授業の概要							
本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ（指導）体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教科書・参考書							
教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3 参考書：「コーチング学への招待」日本コーチング学会（編）（大修館書店）ISBN：978-4-469-26819-5 参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1108-1 指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3							

授業外における学修及び学生に期待すること

**授業外における学習**：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。

**学生に期待すること**：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習授業の進め方についての説明</li> <li>・メディアリテラシー（連絡網作成）</li> <li>・自己紹介と他己紹介</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報交換）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ活用）</li> <li>・前学期の省察を行い、目標を設定</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	スポーツ科学の常識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（スポーツの常識）</li> <li>・メディアリテラシー（情報収集）</li> </ul>	予習：スポーツの常識、非常識について考えられることを整理する 復習：スポーツを科学することの意義について考えをまとめる
4	キッズスポーツ指導体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（交流）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成・レポート）</li> <li>・発育発達に応じた運動の理解</li> </ul>	予習：発育発達期の子どもの特長を理解する 復習：子どもへの運動指導
5	輪読①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ミーティング）</li> <li>・輪読テキストの選定と紹介</li> <li>・輪読箇所の担当を決める</li> </ul>	予習：選定した教科書に目を通しておく 復習：担当箇所を精読する
6	輪読②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：競技力とトレーニング）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
7	輪読③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：競技力の養成）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
8	輪読④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：競技トレーニングの計画）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
9	輪読⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：試合への準備）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
10	輪読⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：コーチングにおけるマネジメント）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
11	輪読⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）（テーマ：スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成）</li> <li>・課題レポート作成（締め切り：第12回終了時）</li> </ul>	予習：担当箇所のレジメ作成 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
12	パフォーマンス測定①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（協働）</li> <li>・測定方法の手順と確認</li> <li>・メディアリテラシー（測定用紙作成）</li> </ul>	予習：測定方法を確認する 復習：測定記録用紙のフォーマットを完成させる
13	パフォーマンス測定②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（協働）</li> <li>・メディアリテラシー（データ入力）</li> <li>・収集した測定値の確認</li> </ul>	予習：選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習：入力データ不備の確認
14	研究レポートの作成①データの再確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシー（文書作成・エクセル演算）</li> <li>・研究レポートの文書作成方法</li> <li>※研究レポート課題（締め切り：最終授業の1週間後）</li> </ul>	予習：入力データ不備の確認 復習：レポート作成に取り組む
15	研究レポートの作成②レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックライティング</li> <li>・研究レポートの作成</li> </ul>	予習：研究レポートの作成 復習：研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	落合 和昭 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。③ホテルを開発する手法を学びます。ホテルは「新たな需要を作り出す」とも言われます。④架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ホテルにおける開発業務を理解し、新しいマーケットの創造についても提案することができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集すると同時に、事業開発の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分で架空のシミュレーションを行うことができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	架空のホテル開発にあたり、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、差別化や独自性など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。				授業への積極姿勢 ホテル・インスペクションへの積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行者など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。							
② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。							
③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。							
④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルを開発する時に必要な作業を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査書の作成（どんなマーケットが期待できるか）</li> <li>設計と件書の作成（その市場ではどのようなホテルが最も相応しいか）</li> <li>事業収支計画の作成（そのホテルの投資額や期待される利益はどの程度か）</li> </ul> </li> <li>自分で架空の計画を作成して、ホテル開発をシミュレーションする。</li> </ul> <p>また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：授業時に、指定する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。							
② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。							
③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えておく
3	ホテル開発に関する要件	ホテル開発を計画するにあたり必要とされる要件に関して、説明を受け理解する。	(復習) 自身で架空のホテル計画を立案する。
4	ホテル開発に関する市場調査①	ホテル開発の前提となる市場調査書の作成について、説明を受け理解する。	(復習) 説明に基づき、架空のホテル計画に関わる市場調査を行う。
5	ホテル開発に関する市場調査②	調査結果を発表し、それにより予測されるホテル計画について、相互に評価や提案を行う。(1回目)	(復習) 意見交換結果をまとめて、市場調査書に反映させる。
6	ホテル開発に関する市場調査③	調査計画を発表し、それにより予測されるホテル計画について、相互に評価や提案を行う。(2回目)	(復習) 意見交換結果をまとめて、市場調査書を完成させる。
7	ホテル開発に関する設計与件書①	設計者が前提とする設計与件書の作成について、説明を受けて理解する。	(復習) 説明に基づき、自身で作成する架空のホテル概要を計画する。
8	ホテル開発に関する設計与件書②	計画にあたって生じた質疑の意見交換を行うとともに、補足説明を受ける。	(復習) 質疑応答結果をまとめて、設計与件書の概要を作成する。
9	ホテル開発に関する設計与件書③	自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。(1回目)	(復習) 意見交換結果をまとめて、設計与件書を完成させる。
10	ホテル開発に関する設計与件書④	自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。(2回目)	(復習) 意見交換結果をまとめて、設計与件書を完成させる。
11	ホテル開発に関する事業収支計画①	事業推進者が判断の前提とする投資計画の作成について、説明を受けて理解する。	(復習) 説明に基づき、自身で作成する架空のホテル投資を計画する。
12	ホテル開発に関する事業収支計画②	自身で作成した投資計画の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。	(復習) 質疑応答結果をまとめて、投資計画の概要を作成する。
13	ホテル開発に関する事業収支計画③	事業推進者が判断の前提とする収支計画の作成について、説明を受けて理解する。	(復習) 説明に基づき、自身で作成する架空のホテル収支を計画する。
14	ホテル開発に関する事業収支計画④	自身で作成した収支計画の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。	(復習) 質疑応答結果をまとめて、収支計画の概要を作成する。
15	専門演習ⅡAのまとめ	専門演習ⅡA学んだことをとりまとめ、発表する。	(予習) 発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者が文献を講読・発表・議論する中で、文献を批判的に読み解き分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、他者と建設的な議論をする力、これらの力の養成を図りたい。テーマは「日本の教育と社会を語ろう、考えよう」とし、現代日本の教育問題や社会問題を討議していく。また文献の講読等を通じて、テーマに関わる基本的な法律や制度、時事問題の基礎知識を習得することもねらいとする。							①⑤⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本の教育や社会問題等の時事的問題に関する基本的語句や事項を習得し、法律や制度の面からも、その事象の問題性を指摘できる。				レジュメ 発表と議論	15% 15%	
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。				レジュメ 発表と議論	15% 15%	
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	20%	
協働・課題解決力	子ども達を取り巻く環境や日本社会が抱える問題について、自分なりに問題点を指摘し、解決に向けた方策を提案することができる				レジュメ 発表と議論	10% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を40%、発表と議論を60%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による批判的考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については、日本の教育と社会について受講者全員で議論したいテーマを設定し、担当者が資料や論考をレジュメにまとめ、授業ではそれを基に議論する。またその過程で、テーマに関する制度や法、現状や今後の課題などについて理解を深める。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 指定図書：志水宏吉編『岩波講座 教育』（1～7巻）岩波書店（2016） 指定図書：小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社（2019） 参考書：勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣（2015） 木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣（2019）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程を履修しているもの</li> <li>・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの</li> <li>・子どもや教育の問題について関心のあるもの</li> <li>・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの</li> </ul> <p>※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p> <p>※専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める（発表は専門演習ⅡB）。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ループリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める①	各自が最も興味を持っている日本の教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
4	興味関心を高める②	各自が最も興味を持っている日本の教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
5	興味関心を高める③	『岩波講座 教育』等の文献から講読したい論考を選び、発表担当者を決定する。報告手法(レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) 講読・議論したいテーマを考えておく 復) 報告手法の復習
6	基礎知識の修得①	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 子どもの貧困と学力	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
7	論考の講読①	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 山田哲也「格差・貧困から公教育を問い直す」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
8	基礎知識の修得②	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ネット社会と子ども	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
9	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 土井隆義「ネット・メディアと仲間関係」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
10	基礎知識の修得③	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ジェンダーと教育	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
11	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 木村涼子「ジェンダー秩序を巡る教育のポリティクス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
12	基礎知識の修得④	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 教師の仕事	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
13	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 伊藤美奈子「教師のメンタルヘルス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
14	興味関心を高める④	日本の教育問題・社会問題について本演習で学んだことを整理し、発表する。また、夏季休暇中に講読する本のテーマを決定する。	予) 発表準備 復) 議論を振り返る
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。 観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する 前年度は番組出演、映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営を実践した。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる。				課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	30%	
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる。				企画・番組内容	40%	
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加することができる。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNSによる情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
観光情報について実践的に学ぶ。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地で実施する。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することやベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『調べる技術・書く技術』 講談社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
3	放送機材の活用	放送用機材を使った撮影録音操作・活用を実践する	予：映画を作るときに必要な機材を調べる
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	番組・映像デザイン準備	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
6	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：事例研究・分析
8	文書作成とデータ管理	文章の作成とデータベース、グラフィックスの演習	予：アプリケーションの動作確認
9	映像プレゼンテーション	ソフトウェア操作、字幕やテロップの演習	予：指定サイトの参照
10	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	予：指定サイトの参照
12	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送や作品の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	放送実施企画	放送番組や映像作品内容の確認と内容研究	予：内容の確認と発表練習等
14	事前制作発表	グループでの番組やコンテンツを企画し発表する	予：作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	制作発表	具体的な番組やコンテンツを企画し発表する	予：事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の学びのうち、「まちのことば」に焦点をあてる。実際にまちに関わり、参加することを通して、「ことば」をつくる実践をしていく。そして、多様な人と生きる多文化共生社会における「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。							①④⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	現代日本における「ことば」を様々な観点から考察し、社会状況から「ことば」のあり方の未来像を描くことができる。				レポート	30 %	
情報収集、分析力	まちの人と関わりながら情報収集をし、分析、考察することができる。				発表資料 事前・事後学習	20 % 20 %	
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。				発表 ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。				相互評価 自己評価	10 %	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
レポートで30%、ことばと社会に関する知識（事前・事後学習、発表資料）で40%、企画立案活動（発表、ディスカッション、自己相互評価）で30%、で評価する。各フィードバックは授業内に行う。							
授業の概要							
本演習では、実際にまちに関わり、参加することを通して、学びをつくりながら「ことば」を考えていく。そしてフィールドにおける「ことば」を提案・発表し、社会につなげることをめざす。発表等に対するフィードバックは授業内で行う。課外でグループ活動を行うことがある。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜ハンドアウトを配布する 参考書：演習内で指定する。 指定図書：山崎亮『まちの幸福論 コミュニティデザインから考える』NHK 出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点から「ことば」「社会」「学び」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしたい学生を対象としています。実際にまちや色々な人と関わる経験をしたい人、主体的にプロジェクトができる学生に向けています。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらディスカッション運営できること、文献を読み、レポート執筆できる日本語力が必要です。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：自己紹介、「日本語」のイメージを話せる ようにしてくる
2	省察・個人面談	専門演習Ⅰでの学びを省察し、今学期の見通し、個人 目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオ の作成 復習：個人ポートフォリオ の見直し
3	ワークショップ①	外部講師によるワークショップ 「まちをつくるとは」	予習：ハンドアウトを讀ん でくる 復習：内容の要約
4	文献購読②	コミュニティデザインに関する基礎文献購読	予習：ハンドアウトを讀ん でくる 復習：内容の要約
5	文献購読②	ソーシャルインクルージョン、「ことば」に関する基 礎文献購読	予習：ハンドアウトを讀ん でくる 復習：内容の要約
6	フィールドワーク①	フィールドワーク準備	予習：ハンドアウトを讀ん でくる
7	フィールドワーク②	フィールドワーク実施	予習：ハンドアウトを讀ん でくる 復習：内容の要約
8	フィールドワーク③	フィールドワーク実施	予習：ハンドアウトを讀ん でくる 復習：内容の要約
9	これからのことばをつくる ①	これまで学んできたことを参考に、自分たちの「こと ば」を考え企画立案、作成する。	予習：ハンドアウトを讀ん でくる
10	これからのことばをつくる ②	① で観察したことから課題を発見し、解決方法を探 る。	予習：報告を書いてくる 復習：課題解決方法を考え る
11	これからのことばをつくる ③	②の解決方法にもとづいて、企画立案し、企画に適し たあらたなことば、方法等を考える。	予習：企画を考えてくる 復習：ルールを確認
12	これからのことばをつくる ④	③の企画にもとづき、企画の成果物を作成する	予習：企画成果物の作成
13	これからのことばをつくる ⑤	企画成果物の発表を行い、相互評価を行う	予習：企画成果物発表準備
14	これからのことばをつくる ⑥	④を受けて企画成果物の修正、再構成を確認し、完成 させる。レポートの概要を説明し、作成の準備をする。	予習：企画成果物の修正
15	ふりかえり	今学期のふりかえりと協働省察を行う	予習：個人ポートフォリオ 記入 レポートの作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	城本 高輝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
観光業界は、新型コロナウイルス感染拡大により、多くの企業が経営危機を迎えています。しかし、新型コロナウイルス感染が終息に向かえば、多くの人が観光に出かけ、観光業界の経営状況も大きく変わることが予想されます。この授業では、九州の観光地等での地域連携活動を通して、観光の魅力を理解し、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を養い、社会人に向けた基礎力を身に付けます。							①⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で専門的な経験が身に付きます。				・質疑応答	30%	
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付きます				・課題レポート	40%	
コミュニケーション力	演習の随所に学生間での交流機会を設け、発表の機会を経験することで自己表現力が身につきます。				・自己表現力	20%	
協働・課題解決力	観光全般についての理解力と創造力が身に付きます。深く考えることで自らの思考力を磨くことができます。				・発表内容	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
グループ内でのコミュニケーション力と情報収集、分析力に対する達成率を重視します。課題レポートも随時行い、全員の発表会も開催します。授業の出席率、授業態度、および学習実績を参考としながら評価します。							
授業の概要							
この授業では、地域連携活動について計画的に取り組みます。また、授業では、行政の施策、インターネット情報、書籍を参考にしながら九州や長崎の各地域のあり方について学習します。実践的な産官学連携活動や様々な分野の方とのコミュニケーションを通して、「社会人基礎力」を身に付けます。また、学習した知識を活用して、プレゼンテーション、報告書作成に取り組みます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：きほんを学ぶ世界遺産 100 世界遺産検定 3 級公式テキスト 参考書：世界遺産検定公式過去問題集 3・4 級 2021 年度版							
授業外における学修及び学生に期待すること							

準備学習は、様々な地域連携活動を調査し、理解することです。新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンライン、対面、現地でのフィールドワーク等の様々な手法で学習することとなります。また、企画書などの表現力、プレゼンテーション力の向上を意識した学習も必要です。この授業を通して、自分の将来ビジョンを自分でデザインしていくことを期待します。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の流れを説明	本講座の概要について説明します。さらに全体のスケジュールを説明します。	シラバスを熟読する。
2	個別面談①	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
3	個別面談②	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
4	地域連携活動ミッション提示	ミッションを理解し、魅力のある地域連携活動について考える。	インターネット、ガイドブックなどで情報収集する。
5	地域連携活動①グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
6	地域連携活動②グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
7	地域連携活動③グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
8	就職ガイダンス	就職について皆さんと考えます。	個別面談を振り返る。
9	地域連携活動④グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
10	地域連携活動⑤グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
11	地域連携活動⑥グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
12	地域連携活動①フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
13	地域連携活動②フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
14	地域連携活動①プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。
15	地域連携活動②プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	竹田 文雄 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では「提案」を学修の課題に取り上げます。具体的には「学生目線でのビジネスプラン」を考案し、プレゼンテーションにまで進化させます。担当教員の実務経験と現場目線も織り込みながら、メンバー全員で考察し、社会全般への造詣を深めていきます。また本演習での学修と実践を通して得るいろいろな「気づき・発見」を生かして、社会から求められる「主体性」「ホスピタリティ」の修得に努めていきます。その他、卒業研究への具体的な着手、就職活動の準備も見据えた上で進めていきます。							①②⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	グループ討議の実践と、その場の取り纏めができる。 (アウトプットの実行。)				・討議参画	30%	
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等を活用できる。 (自分の考えを裏付ける情報の収集と、それら情報の取捨選択。)				・プレゼンテーション	50%	
コミュニケーション力	グループ討議等、議論への積極的な参画ができる。 (他の人の意見の傾聴、自分の意見の発信、双方向の意見交換と相互理解の深化。)				・討議参画	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
何事にも積極性を求めます。特に、「意見出し」。「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の3つの要素を主な評価軸とします(評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。							
授業の概要							
「学生対抗 九州観光ビジネスプランコンテスト(九州観光推進機構主催)」にエントリーします。実際にビジネスプランを作成し、プレゼンテーションの作成を完遂します。授業スキームは「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」ものであり、「担当教員がメンバー学生に対して教える・聴かせる」ものではありません。なお学外調査等による授業振り替えの可能性があり、効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。「ビジネスプランコンテスト」のスケジュールにより授業内容を変更します。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定無し。 指定図書：『90日間で世界のどこでも働ける人になる!』：白藤 香 綜合法令出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習のキーワードは社会への「好奇心」。情報収集とその取捨選択を厭わず、何故そのような現象が起きているのか? の解答を自分で求めようとする意識や、自分自身で出した解答をグループ内にシェアしたいと思う積極性など、自発的な積極性を持つ学生の参加に、そしてこの様な力を身に付けたい学生の参加に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もありません」が口癖の学生、指名されても「無言」の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の演習は苦痛をとまなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていません。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	この一年で何をを目指すのか？の確認。 演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介、等。	予：シラバスの読込み。 3分自己紹介の準備。 復：何をを目指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を5分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を5分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
4	観光系推進団体の役割を考える	九州観光推進機構、ながさき旅ネット、佐世保観光コンベンション協会などの活動内容を理解する。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
5	研究テーマの発案	「学生対抗 九州観光ビジネスプランコンテスト（九州観光推進機構主催）」に着手。 プレスト、先行研究の洗い出しの実行。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
6	研究テーマの決定	ビジネスプランのテーマを決定する。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
7	WORK（1）	「1. 取り組みテーマについて」 テーマに取り組んだ理由、現状および課題認識について書き出す。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
8	WORK（2）	「1. 取り組みテーマについて」 テーマに取り組んだ理由、現状および課題認識についてのファイナル。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
9	WORK（3）	「2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて」 アイデアの百出しと取捨選択の実行。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
10	WORK（4）	「2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて」 アイデアの百出しと取捨選択についてのファイナル。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
11	WORK（5）	「3. 九州や地域社会への影響について」 課題の百出しとファイナル。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
12	WORK（6）	「4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介」 具体的な内容の書き出し。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
13	WORK（7）	「4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介」 具体的に書き出した内容のファイナル。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
14	WORK（8）	「5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて」 具体的な内容の書き出し。	予：ホームワーク完成 復：個人発表のレビュー
15	WORK（9） 総括	「5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて」 具体的に書き出した内容のファイナル。 および後期の提出に向けた総括。	予：個人総括の仕上げ

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点について SDGs の視点を通じた持続可能性をテーマに理解します。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。</li> <li>情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。</li> </ul>				レポート作成		30%
情報収集、分析力	域内の社会課題の最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢		50%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。</li> <li>課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。</li> </ul>				プレゼンテーション		20%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(50%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(30%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
<p>SDGsの基礎知識の習得から地域課題に関する認識を持ったうえで、地域における旅行業・観光業の課題を考え、あるべき観光地の方向性についてグループで調査、議論を行う。地域における観光まちづくりや観光事業者の現状や観光客との関係性を理解し、それぞれにおける課題の論点を洞察しながら、新しい時代の地域観光の在り方について、その成果をメンバーとともに研究・発表を行います。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書：『図解でわかるSDGs』平本督太郎（メイツ出版）</p> <p>指定図書：『持続可能な地域の作り方』寛 裕介（英治出版）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では社会課題を持続可能な視点で考え、「規範的・倫理的判断力」の獲得を目標に、多くの学外機関の方との連携や協力の中で自らの考えを深めていくことが求められます。新しい時代の社会に貢献するアイデアを実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	(予習) 自身のこれまでの取り組みや興味・関心をまとめてくる。
3	SDGs の基礎知識習得①	SDGs の基本や取り組む意味について	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
4	SDGs の基礎知識習得②	SDGs の基本的な概念 (17 のテーマ)、用語について学ぶ※専門演習 I の既修者が中心となって進める。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
5	SDGs の基礎知識習得③	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	(予習) 「17 のテーマのうちから一つ選んで実態を調べる」
6	SDGs の基礎知識習得④	各グループの発表と振り返り	(復習) 自分の興味・関心をレポートにまとめる
7	SDGs の基礎知識習得⑤	地域課題の連鎖について考える	(復習) これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
8	SDGs と観光①	地域課題の解決手段としての地域観光の課題と持続性について考える	(予習) 県内の観光資源についてまとめてくる。
9	SDGs と観光②	テーマに従って地域観光の課題について調べて発表する。	(復習) 課題から具体的な論点を考える。
10	グループワーク①	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジュールリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク②	フィールドワーク	(予習) 調査ポイントの確認
12	グループワーク③	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク④	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク⑤	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	成果発表	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・ 前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の 類 型
この演習のねらいは二つあります。一つはSDGsの取り組みについて深く理解し人に説明することを通して、わかりやすく伝える力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。もう一つは、地域社会の多文化共生やインバウンド観光について知り、課題をみつけ、具体的な方策を考える力を鍛えることです。							①④⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	SDGsの取り組みについて深く理解し、わかりやすい資料をつくる ことができる。 必要な調査と分析をし、わかりやすい資料をつくる ことができる。					発表資料	30%
情報収集、 分析力	自身が得た知識をわかりやすく伝えることができる。 テーマに沿って調査や分析をし、分かりやすく説明 できる。 テーマに沿って調査や分析をし、レポートを書ける。					発表 レポート	30% 20%
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。 グループメンバーと協力して発表資料を準備する ことができる。					ディスカッション 発表準備	10% 10%
協働・課題解決 力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分が担当する箇所の発表で 30%、レポートで 20%、発表資料で 30%、発表後のディスカッションへの参加度で 10%、ゼミ仲間との協働で 10% を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授 業 の 概 要							
前半は教科書を読みそれを簡潔にまとめ発表する練習をします。毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の方はコメント・質問し、全員でディスカッションします。後半は、外部講師のレクチャーやフィールドワークを通して地域社会やインバウンド観光の状況について知り、課題をさぐります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：Think the Earth 編著『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』紀伊国屋書店，2018 参考書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店，2019 指定図書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店，2019							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、教科書や他の資料から収集した資料をまとめて自分以外の人に分かりやすく伝える力をつけることに重きを置いています。それは4年生の卒業研究でも必要となるからです。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は資料や教科書の担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。また、外部の方と接触する機会もありますので、積極的に関わってほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。	復習：配布プリントを読む。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き。 復習：本学期的目標設定の清書。
3	SDG s ターゲット 1 ターゲット 2	「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 P32-43 を読む。発表担当者はレジュメを準備。 復習：ターゲット 1、2 関連課題。
4	SDG s ターゲット 3 ターゲット 4	「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 P44-55 を読む。発表担当者はレジュメを準備。 復習ターゲット 3、4 関連課題。。
5	SDG s ターゲット 5 ターゲット 6	「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 P56-67 を読む。発表担当者はレジュメを準備。 復習：ターゲット 5、6 関連課題。
6	SDG s ターゲット 7 ターゲット 8	「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 P74-85 を読む。発表担当者はレジュメを準備。 復習：ターゲット 7、8 関連課題。
7	SDG s ターゲット 9 ターゲット 10	「産業と技術革新の基盤をつくろう」「人や国の不平等をなくそう」について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 P86-97 を読む。発表担当者はレジュメを準備。 復習：ターゲット 9、10 関連課題。
8	地域社会理解（1）	陶磁器の町・有田市の SDG s の取り組み（ゲストスピーカー）	予習：配布プリントを読む。 復習：自身の出身地の SDG s の取り組みについて調べる。
9	地域社会理解（2）	地域（佐世保市）の国際政策について理解する。	予習：配布プリントを読む。 復習：自身の出身地の国際政策について調べる。
10	地域社会理解（3）	地域の日本語支援の現場を見学（学外学習）	予習：配布プリントを読む。 復習：地域のことばの課題を考えてレポート。
11	クラフトツーリズム（1）	クラフトツーリズムについての取り組みについて理解する。	予習：配布物「クラフトツーリズム」を読む。 復習：各地の「クラフトツーリズム」の状況について調べる。
12	クラフトツーリズム（2）	フィールドワーク準備	予習：配布物「クラフトツーリズム」を読む。 復習：フィールドワーク準備
13	クラフトツーリズム（3）	フィールドワーク（学外学習）	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークのまとめ
14	クラフトツーリズムの調査発表	クラフトツーリズムについて調べたことを発表	予習：発表準備 復習：発表のピア評価
15	まとめ	これまでの学習項目について復習し、後期の期末研究に向けたプランについてディスカッション。	予習：興味をもったテーマについて発表の準備。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	浦郷 淳		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習のテーマは「現在の学校」である。現在の日本の小・中・高等学校が置かれている状況や問題点を討議していく。討議する中で、自らの問題意識を「問い」として設定し、必要な情報を収集し、分析し、自らの意見を表現できるようになることをねらいとする。指定された図書に関する不明な語義は各受講者で事前に学習したことを前提とし、受講者のプレゼンテーション・レジュメによる発表を演習の中心に置く。必要な情報を得るための情報収集能力、伝えたいことを的確にまとめるための分析力や表現力、グループワークを通じた協働的問題解決能力、発表に対して建設的な議論を進めるディベート力、議論を通して得た知見を整理する力、これらの力の養成を図りたい。</p>							①・②・③・④・⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本の現在の学校が置かれている状況を知り、文献を読み解くのに必要な用語等を習得し、問題点を説明・指摘できる。				レジュメ 発表と議論	10% 15%	
情報収集、分析力	必要な資料や情報を自ら収集し、整理・分析し、的確に読み取ることができる。 発表を基に、自分の発表を再考し、分析することができる。				レジュメ 発表と議論 レポート	20% 20% 10%	
コミュニケーション力	自らの問いと結論を明確にした上で、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	15%	
協働・課題解決力	グループワークにおいて、問題点を焦点化することができる。				グループワーク	10%	
多様性理解力							
出席 合計					受験要件 100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価については、レジュメの様式・内容を30%、発表とグループワーク・質疑応答・議論を60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを10%の比率で評定する。なお、演習の無断欠席は減点の対象となる。</li> <li>○ レジュメは、①様式や引用のルールへの遵守②問題点と結論、結論に至る根拠が明確に示されているか、の2点を中心に評定する。なお、レジュメの作成方法については演習中に指示をし、演習内で随時コメントする。</li> <li>○ グループワークは、①個々の問題点を出し合い②整理・分類できたかの2点を中心に評定する。</li> <li>○ 発表や議論は、①使用する語句が正確な意味で用いられていたか、②テーマに対して批判的・探究的態度で臨んでいたか、③発表・質疑・発言の内容が論理的なものになっていたかの3点を中心に評定する。</li> <li>○ レポートは、発表での質疑応答を経た修正ができていのかどうかで評定する。レポートは、担当する回の発表終了後に作成するものとし、提出方法等については授業内で指示する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>授業については、石井英真『流行に踊る日本の教育』に掲載されている論考を担当者がレジュメにまとめ、プレゼンテーションを用いて発表する。その発表を基に小グループで問題を焦点化し、全体での討議を行う。論考内の不明な用語については、各自で調べて理解しておくものとし、その理解を基に発表・議論に臨むものとする。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、80分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書・指定図書：石井英真『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社（2021） 参考書：奈須正裕『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社（2020）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。</li> <li>2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。</li> <li>3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。</li> <li>4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</li> <li>5. 専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を指定する（発表は専門演習ⅡB）。</li> </ol>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	疑問点を意識する	教科書をめくって、不明な語句等を共有し、何を調べなければならないのか、学校で何が問題になっているのかを焦点化し、共有する。	予) 教科書通読 復) 理解できなかった語句調べ
4	疑問点を共有する	学校で問題になっていることの概略を、持ち寄った資料で共有する。	予) 学校で問題になっていることを示す資料 復) 議論の振り返り
5	興味関心を高める	教科書の中から、発表担当者を決定する。報告手法（レジユメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など）を説明する。	予) 教科書通読と担当希望箇所選び 復) 報告手法的確認
6	論考の講読①	教員が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 資質・能力ベースのカリキュラム改革	予) 論考の講読・不明語句調べ 復) 資質・能力について整理する
7	論考の講読②	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 個別化・個性化された学び	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) 個別化・個性化された学びについて整理する
8	論考の講読③	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 対話的・協同的な学び	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) 対話的・協同的な学びについて整理する
9	論考の講読④	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) プロジェクト型学習	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) プロジェクト型学習について整理する
10	論考の講読⑤	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) インクルージブ教育	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) インクルージブ教育について整理する
11	論考の講読⑥	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 教師による「研究」	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) 教師による「研究」について整理する
12	論考の講読⑦	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 外国語「コミュニケーション」	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) 外国語「コミュニケーション」について整理する
13	論考の講読⑧	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 大学入試改革	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) 大学入試改革について整理する
14	論考の講読⑨	担当者が作成したレジユメをもとに論考を講読し、議論する。 例) エビデンスに基づく教育	予) 論考の講読あるいはレジユメ作成・不明語句調べ 復) エビデンスに基づく教育について整理する
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA (CF301)			担当教員	江島 弘晃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>専門演習 IIA および IIB では運動生理学や健康科学に関する専門的知識を習得することを目的とする。とくに、当該分野における研究背景および進展状況を把握することで卒業論文を作成する準備を進めていく。IIA では分子運動生理学に関するテキストおよび原著論文の輪読を行うこと、また関連研究の情報収集および分析する能力を習得することに重視する。</p>							②③⑤⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動生理学や健康科学に関する専門的知識を獲得することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の遂行</li> </ul>	30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動生理学や健康科学に関する最新の情報を原著論文等を通して収集し、自身の考察力を育むことができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集</li> </ul>	60%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べるができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の主張を踏まえた議論の展開</li> </ul>	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>参考書を通して運動生理学に関する専門的な理解度を評価基準とする（評価比率:30%）。また、各自が設定した課題やテーマに関する先行研究や資料を選択し、それらを基にし、自身の考察を踏まえた適切な要約を作成すること（評価比率:60%）、数回の発表機会を通じたプレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する（評価比率:10%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
<p>運動生理学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いた文書・表図作成またはスライド作成の技法を獲得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない  参考書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナッパ）ISBN：978-4-905168-59-1  指定図書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナッパ）ISBN：978-4-905168-59-1</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習授業の進め方についての説明</li> <li>・ 個別に学業などに関する面談を実施</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による参考書・テキストなどの紹介</li> </ul>	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
4	輪読の準備 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による輪読・発表（当該研究分野における起源又は最新の研究内容などの発表）</li> </ul>	予習：PCの準備 復習：授業で紹介した研究内容について復習
5	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による輪読・発表 （テーマ・分子運動生理学入門）</li> </ul>	予習：参考書の通読 復習：分子運動生理学の概念について復習
6	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・遺伝とスポーツ:背景と方法論）</li> </ul>	予習：参考書の通読 第2章のレジюме作成 復習：遺伝とスポーツの関連性について復習
7	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・シグナル伝達と運動適応）</li> </ul>	予習：参考書の通読 第3章のレジюме作成 復習：シグナル伝達について復習
8	原著論文の紹介 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・シグナル伝達と運動適応）</li> </ul>	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：運動時のシグナル伝達に関する先行研究の復習
9	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・持久的運動による分子適応）</li> </ul>	予習：参考書の通読 第4章のレジюме作成 復習：持久的な運動による生体適応について復習
10	原著論文の紹介 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・持久的運動による分子適応）</li> </ul>	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：持久的な運動による生体適応に関する先行研究の復習
11	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・遺伝と持久的スポーツ）</li> </ul>	予習：参考書の通読 第5章のレジюме作成 復習：遺伝と持久的なスポーツの関連性について復習
12	原著論文の紹介 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・遺伝と持久的スポーツ）</li> </ul>	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：遺伝と持久的なスポーツの関連性に言及した先行研究について復習
13	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・レジスタンス運動の適応）</li> </ul>	予習：参考書の通読 第6章のレジюме作成 復習：レジスタンス運動について復習
14	原著論文の紹介 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の紹介 （テーマ・レジスタンス運動の適応）</li> </ul>	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：レジスタンス運動に関する先行研究について復習
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期授業のまとめと休暇中の課題</li> </ul>	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF 301)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	25%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	10%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の90%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅠA・ⅠBの流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関する問いを人文科学的に考察できる。体育スポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				・ 専門分野研究の要約内容 ・ 指導立案や指導実践	15% 15%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				・ 資料収集 ・ 専門分野に関する問題設定	30% 20%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。</li> <li>運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。</li> <li>フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメ等の発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。</li> <li>本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。</li> <li>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 菅野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・ 本演習の概要説明 ・ 個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学 期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の 清書
3	「論文」という伝え方ⅡA	論文は感想文やレポートと何が違うのか	予習：『新版 論文の教室』を 通読 復習：図書「はじめに」と 「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡA	主張の抽出と思考の言語化ⅡA (テーマ：要約作業から論証作業へ)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定の ち再検索
5	指導案の作成ⅡA	授業/指導計画と種目の教材化ⅡA (実技指導の対象に加え環境を選定)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実 技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：遊びを本質とするスポーツ)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘 をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：体育、スポーツ、運動部活動、武道の区別)	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：スポーツ指導に科学的知識を活かす)	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：パフォーマンス向上のための取り組み)	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学 習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：スポーツ成績を左右するのは身体能力か メンタルか、幼少期からスポーツをすることの是非)	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ：幼児体育の指導法)	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・ 各自設定した研究テーマ や作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB(CF301)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>専門演習 IIA および IIB では、社会科学分野においてはスポーツマネジメントや地域スポーツ、自然科学分野においては運動生理学や測定評価・コンディショニングに関する専門的知識を習得することを目的とする。特に、各自の専門競技種目や興味関心の高い分野における研究の現状を把握し、卒業論文を作成する準備を進めていく。IIA では運動生理学やスポーツマネジメントに関するテキストや論文の輪読を行うこと、また関連情報の収集や分析、実習に主眼を置く。</p>							②③⑤⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツマネジメントや運動生理学に関する専門的知識を獲得することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の取り組み</li> </ul>	30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツマネジメントや運動生理学に関する情報を、書籍や論文等を通して収集し、自身の考察力を向上することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の内容</li> </ul>	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べるができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>質問や意見を踏まえての議論</li> </ul>	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>スポーツマネジメントや運動生理学に関する理解度を、課題の取り組みや実習により評価する(評価比率:30%)。また、各自の専門種目や、関心のあるテーマに関するデータ・先行研究などの資料を基に、その趣旨を考察し、適切に要約し、情報収集を行っているかを評価する(評価比率:50%)。さらに、担当の授業時間で実施するプレゼンテーションやディスカッションの内容を評価する(評価比率:20%)。授業課題の提出やフィードバックはポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
<p>スポーツマネジメントや運動生理学に関するテキストや論文を輪読する。輪読に伴い、PC やタブレット等を用いた文書やスライドの作成技術を実践的に修得する。担当者は予習として事前に資料を作成し、授業ではプレゼンテーション形式による発表と、参加者全員によるディスカッションを行う。また、理論的な内容を実習によって実践的なものにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない  参考書：「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康・体力づくり事業財団(南江堂)  指定図書：「スポーツマネジメント入門」相原正道他 2021(晃洋書房)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習を通してスポーツ実践のための生理学的理論や、スポーツを支えるためのスポーツマネジメント理論に触れ、自身の専門種目の競技力向上や、将来のスポーツに関わる仕事に反映してほしい。また、本演習で行うカンファレンスや実習によって、コミュニケーション能力や課題の取り組みなど、社会人の基礎となる能力の向上を目指してほしい。そのために、挨拶や授業態度、時間厳守などの基本的な社会行動を守り、授業を欠席する際には事前に連絡するなどの習慣をつけてほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>本演習の進め方についての説明</li> <li>自己紹介、個別の面談実施</li> </ul>	予習：シラバスを熟読する 復習：ゼミメンバーの確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の省察</li> <li>本学期の目標設定</li> </ul>	予習：前期の省察 復習：本期の目標確認
3	輪読準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考書・テキストなどの紹介</li> <li>輪読方法の紹介</li> </ul>	予習：専門種目や興味あるスポーツについてのテキストを読む 復習：輪読方法の確認
4	研究発表の聴講	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による輪読・発表を聴き、質問をする</li> <li>発表担当者の決定</li> </ul>	予習：PCの準備 復習：輪読内容の確認
5	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (運動生理学部門 1)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：運動生理学と専門種目について考える
6	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (運動生理学部門 2)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：運動生理学と専門種目について考える
7	実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動生理学理論に基づく筋力・神経系トレーニング</li> </ul>	予習：トレーニング法を調べる 復習：実施したトレーニングと専門種目について考える
8	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (運動生理学分野 3)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：有酸素系運動と専門種目について考える
9	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (運動生理学分野 4)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：有酸素運動と専門種目についてまとめる
10	実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動生理学理論に基づく持久力系トレーニング</li> </ul>	予習：有酸素運動系の理論について確認 復習：実施したトレーニングを専門種目に取り入れる
11	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (スポーツマネジメント分野 1)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：専門種目のマネジメントについて考える
12	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による発表 (スポーツマネジメント分野 2)</li> </ul>	予習：該当部分のテキストを読む 復習：専門種目のマネジメントについてまとめる
13	実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツマネジメントの理論に基づきスポーツイベントの企画を立案</li> </ul>	予習：興味のあるスポーツイベントをマネジメントの観点から調べる 復習：立案した企画を精査する
14	実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画したイベントの発表</li> </ul>	予習：立案した企画を完成させる 復習：受けた質問や意見をもとに内容を修正する
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期授業のまとめ</li> <li>休暇中の課題を決定する</li> </ul>	予習：前期の授業を振り返る 復習：各自設定した課題などを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、専門演習Ⅰと異なる視点からフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。							②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツツーリズムを全般的に理解することができる。				演習への参加度	30%	
情報収集、分析力	フィールド調査で得られたデータを科学的に分析できる。				研究レポートとプレゼンテーション	50%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。</li> <li>演習への参加度：議論やグループワークへの参加度合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの現場でのフィールド調査を通じて、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期には問題設定と先行研究の渉猟、調査計画と予備調査を実施し、後期の本調査に備える。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。 本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習ⅠからⅢにかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習 I の成果を振り返り、本学期の目標を設定する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ①	「前学期の省察」と「本学期の目標設定」について面談を実施する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
3	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ②	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ③	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
5	フィールド調査の準備 ①	フィールド調査（予行）の対象について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
6	フィールド調査の準備 ②	フィールド調査におけるデータ収集方法（アンケート、参与観察、インタビュー）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備 ③	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。ハウステンボスバラとワインマラソン開催期間中にフィールド調査を行う。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
8	調査結果のまとめ ①	フィールド調査を振り返り、ICTを活用したデータの整理・分析について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データの整理
9	調査結果のまとめ ②	質的データ分析の応用について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
10	調査結果のまとめ ③	量的データ分析の応用について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
11	研究レポートの作成 ①	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 ②	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 ③	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、後期の本調査に向けて検討する。	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の調査と収集 博物館及び地域文化資源に関するフィールドワークを行い、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「収集」「調査研究」機能について学び、実際の収集・記録活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記録の方法を身に着けることができる。			授業・調査への参加度	30%		
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。			事前学習のPPT、レジュメ	40%		
コミュニケーション力	フィールドワークおよびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。			グループワークへの取り組み	20%		
協働・課題解決力	地域文化資源について関心を抱き、調査・研究を行う中でゼミ生との協調性を養い、協働して課題解決に取り組むことができる。また、ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。			プレゼンテーション研究発表	10%		
多様性理解力					%		
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。</li> <li>・事後学習の一環として、フィールドワークで得られた研究成果を整理し、その提出を必須とする。</li> </ul>							
授業の概要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における資料収集および記録の目的・意義を確認 2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査成果に関するプレゼンテーションの実施 4. フィールドワークの実施（5月下旬～6月中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の搜索と収集、記録作業を行う。） 5. 収集した地域文化資源の整理(調書・文化財マップ等) 6. フィールドワークを基に自身の研究を検討し、研究内容に関する発表を実施 ※フィールドワークは、教員の車で移動できる範囲で行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：使用しない 参考書：授業中に指示する 指定図書：青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集および調査能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。 併せて、フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各組で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理的環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案、図書館の使い方を確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
4	事前学習②	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
5	事前学習③	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
6	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の発表内容の再確認 復習：準備事項の確認
7	フィールドワーク	5月下旬～6月中旬に、日帰り地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
8	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
9	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	整理作業③	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を完了する。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
11	展示構想①	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。	予習：博物館を見学してパネルを写真撮影 復習：パネル・ポスター案の検討
12	展示構想②	ゼミ内でグループワークを行い、展示に使用するパネルや題箋、ポスター等について検討する。	予習：パネル・ポスター案の検討 復習：決定内容の見直し
13	研究方法の指導	博物館における研究の方法について講義する。	予習：博物館情報・メディア論第3回の再確認 復習：自身の研究方針を再検討
14	調査方法の指導	文献調査、アンケート調査などの方法について講義する。	予習：博物館情報・メディア論第3回の再確認 復習：文献調査を実施
15	調査・研究方針の決定	卒業研究執筆に向けてのテーマ案を構想し、ゼミ内で発表する。	予習：テーマ素案の構想 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA (CF301)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことばという、形のないものに値段がついているという観点から日本語を考える。「ことばの社会言語学的価値」について考え、日本語をはじめとした様々な言語にいかに関差が存在しているかを学ぶ。							③④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会言語学的価値について理解する。				発表 レポート	15% 20%	
情報収集、分析力	インターネットや図書を活用して生データを収集・整理・分析することができる。				発表	40%	
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べるができる。				発表 ディスカッション	10% 15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
社会言語学的価値に関する専門知識について、普段の発表やレポートを30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて40%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて30%で評価する。発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。							
授業の概要							
授業内では、資料を輪読し、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、自分で情報を収集し整理したりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：井上史雄（2000）『日本語の値段』大修館書店 参考書：特になし 指定図書：田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代——ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
普段から語彙を増やすように積極的に努めること。 日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT）」を各自受験すること。 3年次で「日本語の研究A/B」を受講すること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の進め方, 評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習) ルーブリック評価と読書記録の入力 復習) ルーブリック評価
3	I ことばの知的価値と情的価値	(1) 日本語の言語市場	予習) I-1を読む 復習) 他言語について調べる
4	I ことばの知的価値と情的価値	(2) ことばの知的価値	予習) I-2を読む 復習) 他言語について調べる
5	I ことばの知的価値と情的価値	(3) ことばの情的価値	予習) I-3を読む 復習) 発表準備
6	I ことばの知的価値と情的価値	発表	予習) 発表準備 復習) 他者の発表の感想を書く
7	I ことばの知的価値と情的価値	発表	予習) 発表準備 復習) I章のまとめを書く
8	II 日本語の格付け	(1) 日本語の市場価値の変動	予習) II-1を読む 復習) 他言語について調べる
9	II 日本語の格付け	(2) 今なぜ日本語の試験か	予習) II-2を読む 復習) 他言語について調べる
10	II 日本語の格付け	(3) 外国語の試験	予習) II-3を読む 復習) 他言語について調べる
11	II 日本語の格付け	(4) ことばに値段がつく時代	予習) II-4を読む 復習) 他言語について調べる
12	II 日本語の格付け	(5) 日本語の難易度	予習) II-5を読む 復習) 発表準備
13	II 日本語の格付け	発表	予習) 発表準備 復習) 他者の発表の感想を書く
14	II 日本語の格付け	発表	予習) 発表準備 復習) II章のまとめを書く
15	まとめ	前期のまとめ	予習) I と II を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	相羽 枝莉子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
スポーツ心理学の専門テキスト及び学術論文の輪読を通して、自己の興味・関心のあるスポーツ心理学の知識を深めることを目的とする。また、これらの知識をもとにスポーツの現場に出向き、そこで発見した課題について、解決に向けたディスカッションを行う。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツ指導者及びアスリートにおける心理学的課題について、専門用語を用いて説明することができる。研究計画を立て、調査結果を分析することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	15% 15%	
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	30% 30%	
コミュニケーション力	スポーツ現場における心理学的課題について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。				プレゼンテーション	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション資料:プレゼンテーションの担当箇所の内容を理解し、要約できているかを評価する(評価比率:15%)。また、調べた情報から客観的な根拠を基に資料を作成できているかを評価する(評価比率:30%)。</p> <p>調査・実験レポート:授業内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する(評価比率:15%)。また、調査・実験で得たデータを、心理学的手法を用いて分析できているかを評価する(評価比率:30%)。</p> <p>プレゼンテーション:担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する(評価比率:10%)。</p> <p>※プレゼンテーション及びプレゼンテーション資料については、授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、テキスト及び論文の輪読を通してスポーツ心理学の基礎知識を幅広く学ぶ。各章の担当者を決定し、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、授業内でディスカッションを行う。課題の提出及びレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>後半は、メンタルトレーニングに関する基礎知識を習得し、実践活動への応用を通じて、課題発見・解決についてディスカッションを行う。さらに実験・調査を計画し、データ収集、分析、レポート作成を通して研究手法を学ぶ。</p> <p>なお、当該授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書: 使用しない</p> <p>参考書: 中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房, 2012</p> <p>指定図書: 日本スポーツ心理学会(編)『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店, 2016</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、学外活動では、地域の方々から学ぶ者として謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨み、時間厳守や報告・連絡・相談に努めること(なお、活動にかかる交通費は、原則自己負担)。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守ること。</p> <p>※本演習を選択する者は、スポーツツーリズムコースを履修することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	授業担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読 (1)	スポーツ心理学の知識 (1)	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
4	輪読 (2)	スポーツ心理学の知識 (2)	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
5	輪読 (3)	スポーツ心理学の知識 (3)	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
6	スポーツボランティア活動	スポーツボランティア活動に参加し、心理学の観点から課題を発見する	予習：活動内容を振り返り、課題を整理する
7	輪読 (4)	自己のテーマに関する文献の考証	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
8	輪読 (5)	自己のテーマに関する文献の考証	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
9	輪読 (6)	自己のテーマに関する文献の考証	予習：担当箇所の精読・要約・レジюмеを作成する
10	実験・調査計画 (1)	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験を計画する	予習：調査・実験計画書を作成する
11	実験・調査計画 (2)	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験を計画する	予習：調査・実験計画書を作成する
12	実験・調査	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験を実施する	復習：調査・実験のデータを整理する
13	実験・調査の分析	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験結果の分析	予習：調査・実験結果の分析
14	実験・調査レポートの作成	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験の考察、レポートの作成	予習：調査・実験のレポート作成
15	発表	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験結果に関するレポートの発表及びディスカッション	復習：調査・実験のレポート修正